

ボラ はあと

第17回

編集：能美市ボランティア連絡協議会

能美市民ボランティアフェスティバル

開催日：令和6年9月29日(日) 会場：根上総合文化会館



オープニングはチビッ子九谷太鼓のみなさん



抽選会では、
能登から避難している方が大当たり!

第17回ボランティアフェスティバルを振り返って

実行委員長 小西 彰子



たくさんの方々のお力添えをいただき、第17回能美市民ボランティアフェスティバルを終えることができました。全ての皆様に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今回は、能登応援コーナーや被災者相談コーナーを設けたり、参加ブースでも能登を支援する展示が見られたりと、能登の復興を願う気持ちを能美市から発信できたのではないかと思います。おたのしみ抽選会で輪島から避難して来られた方に2等が当たった時、会場が温かい空気になったと感じたのは私だけでしょうか。みんなの心がひとつになった瞬間でした。

「今こそ、みんなで支え合う地域の輪!!」。このテーマの通りみんなで支え合って開催できたことに感謝し、1日限りのお祭りで終わることなく、これからも地域の輪・ボランティアの輪を広げていけたらと思っています。

あなたも活動をはじめてみませんか。いつでも **今** がはじまりです。



第17回 能美市民ボランティアフェスティバルの報告



地域福祉推進のマスコミ「のみんなちゃん」

たくさんの方にご来場いただき、日頃の活動を知っていただく機会となりました。



展示作品で、能登を応援!!



能登応援コーナー!
買い物で能登を応援!!



スタンプラリーは毎回大人気!!
頑張ってるね!



ダンスで会場を盛り上げます!!



ウクレレの音色に癒されます♡



体験コーナーも順番待ちです



お楽しみ抽選会!
私の番号引いて...



ゆめボラコンサートは、寺井高校生・OB・OGの
みなさん!フィナーレを飾ってくれました!!



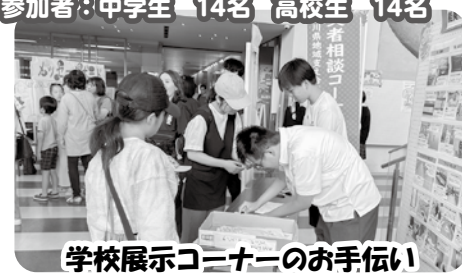
会場には、こんなに
たくさんの方々!

中学生・高校生みんなもボランティア頑張りました!!

参加者: 中学生 14名 高校生 14名



いらっしゃいませ!飲食コーナーの
担当をしました



学校展示コーナーのお手伝い
元気と笑顔をお届けしました♡



ポップコーン作りに初挑戦!

ボランティアに参加して

- ・子どもから大人の方まで、笑顔で楽しんでフェスティバルに参加してくれていたのが嬉しかった。
- ・それぞれのブースでボランティア活動だけではない、福祉のことについて学ぶことができる体験だった。
- ・手話うたではうまくできるかという不安があったが、なんとかうまく出来た。
- ・能登応援コーナーの補助と能登半島への募金の呼びかけでどちらもやりがいがありがんばりました。
- ・皆さんと楽しく活動することができたので良かったです。

能美市民ボランティアフェスティバルに参加して

健康

能美市立病院 北山 尚志

芳珠記念病院、寺井病院、能美市立病院の3病院で今年も参加させていただきました。

昨年はパネル展示や医師による講演会を実施し、今年はコロナ前と同様に医師、看護師等による健康チェック、健康相談コーナーを実施。また、金沢大学の協力で糖尿病をクイズで学べるバーチャルリアリティ体験コーナーを設けました。

健康チェックコーナーでは身長、血圧測定をはじめ、骨密度、体組成、血管年齢の測定を実施し、「血管年齢が実年齢とは違った」などの声が聞かれました。バーチャルリアリティコーナーは大人から子どもまで健康に関するクイズをゲーム感覚で楽しむことができ、糖尿病について楽しく学べたという声がたくさん寄せられました。

来年も健康についての企画を考え、ボランティアフェスティバルを盛り上げたいと思っていますので、皆さんぜひ遊びに来てください。



福祉

能美市介護を考える会 高塚 玲子

能美市介護を考える会では、①活動の紹介および認知症に関するパネルの展示 ②ふれあいステージに参加をさせていただきました。

当会のブースでは、スタンプラリーのおかげで子ども連れの若い方々にも立ち寄っていただき、困った時の相談先や、認知症の方への対応の仕方などの話を聞いていただくことができました。「介護中のご家族に、こうした会があることを伝えます」と言って下さる方もおられ、このような機会は必要だと感じました。

また、ふれあいステージでは、「認知症の理解と接し方」をテーマに、「能美市任意団体福祉ボランティアかがやき姉妹」による寸劇を行い、大勢の方々にご覧いただきました。

会場は終始活気にあふれ、和気あいあいとした雰囲気の中、その一員として参加できたことを嬉しく思います。

ありがとうございました。



環境

根上くるくる工房 南出 尚江

私たち根上くるくる工房のブースでは、毎年リユース品などの販売を行っています。リユース品とはいえ、まだまだ使えるもの、きれいなものが多いので「こんなものもあるの?」「なんでこんなに安い?」といった声が聞かれ、スタッフも一緒に楽しく活動することができました。

また、根上くるくる工房を知らない方、来たことがない方にも多く立ち寄っていただきました。なかには通常の場所や開館時間を尋ねる方もおり、このボランティアフェスティバルをきっかけに、リユースに興味を持っていただくことができました。

今後も皆さんがリユースなどのエコな活動を楽しく無理なく行えるように活動をしていきたいと思っています。

ありがとうございました。



生活

能美市赤十字奉仕団チーム20 田中 策次郎

今年は能登半島地震応援ブースとして参加しました。珠洲焼や揚げ浜の塩、ブルーベリージャムなど能登の物産を100点販売しました。能登の方に書いていただいた筆文字の「がんばろう能登」ののぼり旗を製作し、来場者に応援メッセージを書き込んでもらいました。たくさんの方がブースを訪れ品物は完売、応援メッセージもののぼり旗2枚にびっしりと書いて頂きました。

能美市の皆さんの思いを寄せたのぼり旗は珠洲市の避難所にお届けし、展示され喜ばれています。

能美市の多くの方が能登とつながる素敵なボランティアフェスティバルとなりました。



みんなの感想

- ・楽しくコーナー回れたよ!
- ・いろんな知りあいや新しい人に会えました。
- ・人と人がつながるっていいね。
- ・開会式、フィナーレ共にすごく良かった。特に閉会式の言葉が大変心に残った。
- ・中高校のボランティア大変助かった。来年もお願いしたい。
- ・頑張ろう!能登!! (多数ありました)
- ・能登応援コーナーは「能登頑張ろう!」という皆さんの気持ちがでていて、販売というよりみんなの思いがそこにあった感じがして良かった。



会員の学びと交流のために、分野別研修会を開催しました

第1分野 7月21日(日) 辰口図書館

能美市赤十字奉仕団チーム20 山本 日和子

「こころが通じ合えたとき」と題して、日本音楽療法学会認定音楽療法士 佐藤順子氏にご講演いただきました。「ボランティアする側もリフレッシュして長くボランティアを続けるために体と心を鍛える」と言われ私の心に矢が刺さりました。

「自分で自分をリラックスさせましょう」と先生の一声。
♪おおきな古時計♪を歌い自分で肩から指先まで撫で下ろし、次に太股から足先まで撫で下ろした時にはすっかりリラックスしている自分がいました。心の底から声を出し呼吸を整え体と心を鍛え、長くボランティアが出来る自分でありたいと思います。



第3分野 7月13日(土) ふれあいプラザ

三道山子ども食堂 荒井 信清

「居場所ってなんだろう～人との輪(つながり)づくりを楽しもう～」と題し、コミュニティハウスひとのま代表理事 宮田隼氏より、これまでの経験談を踏まえ居場所や人とのつながりづくりの大切さについて、ご講演いただきました。「誰でも来ていいよ」と、常に鍵を開けた状態の家に多くの人が助けられていたこと、マニュアルだけでは本当の意味で人に寄り添うことは出来ないこと…寄り添うためには、まず仲良くなることの大切さを学びました。

私たちも、これからのボランティア活動を行う上で何が大切か何が出来たのかを日々考えながら人とのつながりを大切にしていかなければならないと、改めて考えさせられました。



津幡町ボランティア連絡会交流会

7月17日(水)、津幡町ボランティア連絡会の方27名が能美市に視察に来られました。

私達のボランティアフェスティバルに興味があるとのことで、1時間ほどの交流会を開催。お互いの活動の様子や後継者不足の悩みなども、和やかに話し合いました。(さらに嬉しいことに、9月29日(日)のボラフェスにも遊びに来てくれたのです!)

離れてはいるけれど、同じ悩みを共有したり刺激し合える仲間ができて、このご縁をこれからも大切にしていきたいと思いました。



お知らせ

第2分野研修会

日時：12月15日(日)

午前10時～

場所：ふれあいプラザ

内容：ウクレレ演奏体験

第2分野会員の皆さん
申込みお待ちしております!!

きまっし ボランティア

編集後記

今年は、元旦に能登半島地震、九月に奥能登豪雨が発生し、ずっと災害支援活動が行われています。一人ひとりができるボランティアを考え、能登に出向いたり、能美市内でも温かな支援と交流で共助の絆が広がっています。

ボランティアフェスティバルでも能登応援コーナーを設けたことで、防災に対する備えの大切さと、また電気・ガス・水道等のありがたさを感じました。

能登の方たちが、一日も早く安心して暮らすことができるよう、復旧・復興を願い応援していきたいと思っています。

福田 攝子